

やっぱりおまえはバカじゃない

ーモヤシからのメッセージー

これは本の題名である。

その昔、ちょうど生徒向けに勉強をテーマにした本がないかさがして、本屋で見つけて買ったのだった。(小学館文庫で438円)

そのあと「バカの壁」(養老孟司 新潮新書)という本を買って読んだら、あとでこれがベストセラーにもなり、本屋に「バカ」をテーマにした本が増えたりした。「やっぱりバカが増えている」(小浜逸郎 洋泉社)、「まれに見るバカ」(勢古浩爾 洋泉社)なんて本があったりして、楽しんで読んだものである。

さて、それはいいとして、この本「やっぱりおまえはバカじゃない」の著者は吉野敬介という。「代々木ゼミナール」という予備校の講師である。彼の経歴がおもしろい。

「オレほど”できない”受験生なんて、ほかにはいないーまえがきにかえてー」から少し引用してみよう。

英国社3教科を足しても、偏差値が80に満たないーこれが、大学受験を決意したときのオレの成績だった。

偏差値はみんなの高校受験では使わない値だが、平均点を偏差値で50とするものである。3教科で80ということは、1教科25あまり。つまり、100点満点の点数にしたなら1けたくらいだろうが、とにかく平均点を大きく下回る点数だったということだ。

おまけに、フルでもあったらしく、高校では停学にもなったし、事件を起こして警察に捕まったこともあるらしい。

大学なんて最初から行く気がなく、正真正銘の不良だったオレだが、ある日突然、大学を受験しようと考えたのだ。

『今から勉強したって受からないだろう』なんて考えてもしかたないから、とにかく勉強した。周囲の誰もが『受かるわけがない』と思っていたオレが、みんなの”期待”を見事に裏切ってしまった。人間その気になれば何とかなる、とオレもこのとき身をもって体験した。

暴走族から晴れて大学生になり、つぎには予備校講師を目指した。夢がかなって、代々木ゼミナールで古文を教えているのが、今現在のオレだ。少々大げさだが、予備校講師はオレの天職だと思っている。だってそうだろう。オレほど、合格できた喜びと、できない受験生の気持ちを知っている人間はいない。偏差値25のどん底からはい上がり、大学に合格したオレの体験を生かし、ひとりでも多くの受験生に、合格の喜びを教えてやりたい。

毎日受験生に接していると、そろいもそろって、みんな弱音を吐きにくる。「できない」「どうせ、頭が悪いから」「やってもダメだ」……。オレからしてみれば、こういう悩みはぜいたくだ。できないうちには、はいらない。オレは、こういう受験生がくると、決まって「おまえは、バカじゃないんだ」と言ってやる。この世の中で、受験勉強ほど公平で単純なものはないと思う。勉強をやった者は受かり、やらなかった者は落ちる。ただそれだけのことなのだ。頭がいいとか悪いとか、そんなことは関係ない。バカだから落ちるんじゃない、やってないから落ちるんだ。受験は、「やれば受かる」という、非常に簡単なことなのだ。

オレは、いままで悪いこともたくさんやったが、正々堂々と”フル”をやってきたという自負がある。そしてわかったことは、どんな世界でも”ごまかし”は通用しない、ということだ。これは、受験勉強でも同じことではないだろうか。受験にはテクニックが必要だとか、要領だとか言うけど、その前に正攻法でいくことだ。そのために必要なのが、受験勉強のやる気だとオレは思う。「受かってやるぞ」という気力があれば、「オレはダメだ」なんて思わずに、つらい受験勉強にも耐えられる。カッコなんて気にせず、髪を振り乱して必死にがんばればなんとかなる。これは、オレだけじゃなくて、これまでオレが家庭教師で教えた生徒たちもみな同じだった。

よく、人生はつらいことがあるからおもしろいというが、毎日楽しくおもしろく、つらいことなんかなくて人生を終わったほうがどんなにかいい。でも、それができないのが現実だ。楽しんで大学に入れたほうがいいに決まっているけど、そんなにうまい話があるわけがないんだ。だったら、できるだけ苦しむ時間を少なくしたほうがいい。落ち込んだり、ダラダラと勉強していてもしょうがない。「やれば受かる」と信じて、とことん突っ走ってみればいい。

この本には、オレのいままでの体験、いままで考えてきたことを、包み隠さず書いてきたつもりだ。受験が終わっても、人生の中でつらいときやピンチのとき、「吉野っていう、暴走族あがりの予備校教師がいたな」と思い出し、「オレもいっしょう、やってみるか」と、やる気を出してくれればうれしい。本番目指して勉強中の受験生は、この本を読んだら、湧き出てきたやる気が消えないうちに、すぐに全力疾走をはじめてほしい。

ここまでが前書きだ。この本は大学受験生向きだが、ここに書いてある考え方は、当然のことながら高校受験生にもあてはまるだろう。「バカだから落ちるんじゃない、やってないから落ちるだけ。」まさしくその通りである。そして「もやし」の「や」、やる気が大切と言っている。

高校生になったら、一読してみるとよいだろう。(今読んでみてもいいのだが)

蛇足だが、この本を読み終えた頃、NHK金沢放送局から連絡があって、テレビに出てくれないうかという。「ろくまる文庫」というコーナーで、本を1冊取り上げ、それについていろいろとインタビューを受け、話をする番組だった。そこで出演し、取り上げたのがこの本「やっぱりおまえはバカじゃない」だった。このコーナーでは最後に一言本に推薦文を書かなくてはならないのだったが、そのときに書いた言葉は「やればできる!!」だった。

(<http://www.nhk.or.jp/kanazawa/bangumi/hyakumangoku/bunko/2001/02-01-03.html>)

君たちにもこの言葉をおくろう。

やればできる！！